

HYOGO INTERNATIONAL ASSOCIATION

カムビア

COME HIA

2021.3
VOL.

101



大災害が起こったとき
多言語での情報発信や
関係団体の支援を
円滑に行うために

発行・問い合わせ：(公財)兵庫県国際交流協会

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 国際健康開発センタービル2F TEL 078-230-3260 URL <http://www.hyogo-ip.or.jp/>
Hyogo International Association 2F International Health Development Center, 1-5-1 Wakinohamakaigan-dori, Chuo-ku, Kobe, 651-0073



災害時の外国人支援の流れを シミュレーションして実施

HIAでは、大規模災害が発生した際に多言語情報発信や関係団体の支援を行う「ひょうご多言語広域支援センター」を設置することとしており、数年前から対応についてマニュアル整備を進めてきました。このたび、「災害時等職員行動マニュアル」「ひょうご多言語広域支援センター設置・運営マニュアル」の2つが完成し、全職員で訓練を実施する体制が整ったため、2020年11月26日(木)に初めての訓練を実施しました。

まず、災害時多言語支援センターの成り立ちと役割について、NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会代表の土井佳彦氏の講義により基礎を理解した後、当協会のマニュアルについて説明を受け、実際の訓練に臨みました。

訓練では、在住外国人にとって必要な情報の収集・精査や優先付けを行うとともに、翻訳業務の調整や情報発信までの流れを体験しました。

今後も訓練を継続し、災害時に備えていきます。

1 災害時のマニュアルについて確認



2 関係機関の情報を収集



6 講師の土井佳彦氏が訓練について講評



3 情報精査担当による情報の優先付け



5 マニュアルで手順を確認



4 翻訳用原稿の作成。今回は翻訳にも取り組みました



多文化共生の在り方を改めて考え 気持ちを新たに次の10年へ



主催者あいさつをする
荒木副会長（副知事）



迎山志保産業労働常任委員会
委員長による来賓あいさつ



ジェフ・バーグランド氏が
講演



高井理事長による
閉会のあいさつ

HIAは、1990年に草の根の国際交流団体として誕生し、県民の国際交流や国際理解を促進するとともに外国人県民への支援、日本語教育の普及、未来を担う人材の育成などの事業を行ってきました。

本年度で設立30周年を迎えたことを機に、これまでの歩みを振り返るとともに、在住外国人数の増加に伴う地域の新たな課題を踏まえ今後の多文化共生について考えるため、2020年11月13日（金）に記念式典と講演会を開催しました。式典では主催者を代表し、当協会副会長の荒木一聡副知事が30年間の取り組みの中で印象的なエピソード等を披露。コロナ渦でも、ひょうご多文化共生総合相談センターが外国人県民への生活支援に大きな役割を果たしたことなどに触れ、今後もますますHIAの役割が重要になるとあいさつしました。



続く講演会では、京都外国語大学国際貢献学部教授でグローバル観光学科長を務めるジェフ・バーグランド氏が「“さくらんぼに見えた梅干し”から半世紀～多文化共生「心」時代!～」と題し、講演しました。ご自身の50年の在任経験から、海外から見た日本の良さや異文化はこうして学んでいくなど、笑いを織り交ぜ、多文化共生の魅力について伝えました。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、参加者人数を限定した形での開催となりましたが、関係者約70人に参加いただき、今後の取り組みへの気持ちを新たにすることができました。



30年間の取り組みを画像で振り返りました

多文化共生を考える研修会を実施

外国人県民と接する機会の多い行政職員、教員、日本語教師、ボランティア等が多文化共生について理解を深めることができる研修会を、NGOと協力してオンラインで開催しました。

【日程】2020年10月29日(木)、11月1日(日)、
11月5日(木)、11月8日(日)

【場所】オンライン(Zoom)開催

【内容】第1回「総論」
第2回「外国にルーツを持つ子どもの教育」
第3回「地域における多文化共生の取り組み」
第4回「難民・移民支援の現状」



11月1日の研修画面

日本語学習 支援者に向けて 3つの研修会



12月12日の研修画面

外国人県民への日本語学習支援に取り組むボランティアの人たち等を対象に、3つの研修をオンラインで実施しました。

2020年12月12日(土) 「外国につながる子どもへの日本語・学習支援を考える研修会」
2020年12月20日(日) 「生活者としての外国人県民(成人)への学習支援ボランティア対象研修会」
2021年 1月16日(土) 「ICT教材活用のための研修会」

外国人県民を 対象に日本語 講座を開催



オンライン授業参加者

「すぐに役立つ日本語講座」

買い物や防災など日常生活に必要な行動ができることを目標に、十分な感染予防対策をとって対面で実施しました。

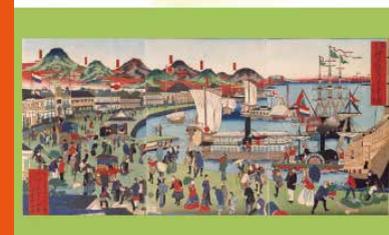
【期間】2020年8月19日(水)
～9月11日(金)

「初級日本語講座」

やさしい日本語でコミュニケーションが取れることを目指し、必要な文型や語彙を順番に学んでいく講座の第2期(週2回、5クラス)をオンラインで実施しました。

【期間】2020年10月19日(月)
～12月15日(火)

「百花繚乱 ひょうごの多文化共生 150年のあゆみ」の発行



神戸開港より多くの外国人が居住し、さまざまなコミュニティが形成され活動してきた兵庫県。県民の皆さんに多文化共生の歴史や現状を深く理解してもらえるよう、平易で読みやすい記録誌を刊行しました。

竹沢泰子・樋口大祐・兵庫県国際交流協会 編
A5版、264ページ、販売単価 1,200円+税



ひょうご国際交流キャラバン

CIRと一緒にイベントをしましょう!

ひょうご国際交流キャラバン

ひょうご国際交流団体連絡協議会の会員団体からの希望があれば、兵庫県CIR(現在韓国、中国、米国の3人)が県内各地で一緒にイベントを行います(無料)。より多くの県民の皆さんに異文化に触れてもらうことを目的としています。ぜひ、ご活用ください。

- イベント内容**
- ・国際理解セミナー(各出身国の文化紹介など)
 - ・子どもを対象とした各国の遊びの紹介
 - ・切り紙・アートなどのクラフト体験
 - ・各出身国の料理教室など



文化講演@尼崎市 韓国CIR ジョヒョクさん



文化クイズ@姫路市 アメリカCIR Yuan Leiさん



切り絵体験@加古川市 中国CIR 王秋声さん

国際交流員(CIR)とは?

国際交流員(CIR, Coordinator for International Relations)とは、地方自治体がJETプログラム(Japan Exchange and Teaching Programme)により、諸外国から招聘している人たちで、地方自治体の国際交流を担当している局員において、さまざまな国際交流活動を行っています。JETプログラムは、地方自治体が総務省、外務省、文部科学省、CLAIR(自治体国際化協会)と協力して行っている事業です。

ひょうご国際交流団体連絡協議会 活動紹介

「やさしい日本語」講座を支援

外国人県民の増加、自然災害の多発とともに、外国人に寄り添う「やさしい日本語」のニーズは高まる一方です。2018年から実施している「やさしい日本語」講師派遣制度。本年度は宝塚市や加東市の国際交流協会をはじめとする県内の国際交流団体による11講座の研修支援を行いました。



神戸YWCA学院主任講師 福井武司先生 (芦屋市国際交流協会)



神戸大学名誉教授 水野マリ子先生 (播磨町国際交流協会)



京都工芸繊維大学名誉教授 水野義道先生 (加古川市国際交流協会)

多言語指さしボード講習を実施

災害時に避難所運営者と被災外国人が最低限の意思疎通を図れるように作成した「多言語指さしボード」の利用方法の講習を2020年12月に開催しました。

講習に当たっては、同ボードの作成に携わった、人と防災未来センターの楊梓主任研究員から、「災害時の外国人対応について」と題し、これまでの全国の対応事例も交えてお話しいただきました。



Zoomによるオンラインで講義する楊梓氏



News 1

国際協力入門セミナー オンライン開催



2020年10月10日(土)、本年度第1回国際協力入門セミナーとして、兵庫県ユニセフ協会、JICA関西、JICA海外ボランティアひょうご応援団と共催で、「地球のステージ～音楽にのせて、地球の声を聴く～」を実施しました。講師は国際医療支援活動などを展開するNPO法人地球のステージの代表理事で心療内科医でもある桑山紀彦氏に務めていただきました。

新型コロナウイルスの影響によりオンラインで開催。参加者はPCやタブレット、スマートフォンなどでインターネットに接続し、第1部ではYouTube Liveを利用し、映像と音楽を組み合わせたコンサートを通して世界の現状を体感。第2部ではZoomによる双方向のトーク交流会により、講師へ思いの質問を投げ掛け、感想をリアルタイムのチャットで送るなど交流を楽しむことができました。



司会の様子

News 2

エジプトの食文化と お菓子のレシピを動画で公開

ロズ・ビ・ラバン
(アラビア語で「米と牛乳」の意)



2020年11月27日(金)、第1回

食文化交流教室として、神戸・三宮の北野坂でエジプト料理店を経営するエジプト料理人、藤原ジーナさんへの取材を県立神戸生活創造センターで行いました。エジプトの食文化や日本とエジプトの興味深い共通点などについて、快活な語り口でお話いただいたインタビューに加え、エジプトのライスプディング「ロズ・ビ・ラバン」の作り方についても教えていただきました。

HIAホームページでは、インタビューの詳細とロズ・ビ・ラバンのレシピ、クッキング動画を公開しています。ぜひご覧いただき、ご家庭での調理に挑戦してみてください！



URL: <https://www.hyogo-ip.or.jp/torikumi/tomonokai/shokubunka.html>



調理中の
藤原ジーナさん

News 3

オンラインセミナー 「わたしたちの難民問題2020」を実施

トルコから第3回の
講師を務めていただいた
景平義文氏 (Zoom画面)



国内外の難民問題をたくさんの方に知っていただくことを目的に、(公財)アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部、神戸YMCA、日本国際連合協会兵庫県本部と共催し、セミナー「わたしたちの難民問題2020」を開催しました。

セミナーは新型コロナウイルスの影響により、全4回Zoomを使用した完全オンライン講演という新たな開催形式となりましたが、それにより日本で活動する方だけでなく、現地(ルワンダ、トルコ)で活動する方々からも直接お話を聞くことができる貴重な機会となりました。

第1回	11月18日(水)「ワークショップで考える難民問題」 講師:中尾秀一(難民事業本部)
第2回	11月25日(水)「ルワンダ内戦の悲劇から学んだこと」 講師:永遠瑠マリルイス (NPO法人ルワンダの教育を考える会)
第3回	12月9日(水)「トルコのシリア難民は今」 講師:景平義文(NPO法人難民を助ける会 トルコ事務所)
第4回	12月16日(水)「日本に暮らすミャンマー難民」 講師:マリッパ・センブ(NPO法人 PEACE)

海外事務所だより
 ~News from overseas office~

●HIAのホームページで海外事務所情報を発信しています！

詳しくは<海外事務所トピックス>をご覧ください。→→→



新事務所に移転して、事業を開始しました(西オーストラリア州・兵庫文化交流センター 2020年7月)

aveyron.fr

Le site du Conseil départemental de l'Aveyron
 www.aveyron.fr
 20 ans de relations entre Aveyron et Hyogo



アヴェロン県と、今後の両県における友好交流(芸術、スポーツ交流等)について意見を交換しました(兵庫県パリ事務所 2020年10月)



Hyogo Sake Experience
 神戸のお酒
 VIRTUAL STUDY TOUR
 JETRO
 HYOGO



オンラインで兵庫県日本酒体験を実施しました(兵庫県ブラジル事務所 2020年11月)



中国飲食文化大師に神戸ワインのプロモーションを行いました(兵庫県香港経済交流事務所 2020年9月)

兵庫県ワシントン州事務所
 小林所長ごあいさつ

2020年4月に就任しました小林です。
 兵庫県ワシントン州事務所は、シアトルに神戸市と共同事務所を構え、文化・教育、経済、観光事業に力を入れています。



ひょうごの
 仲間たち

ベトナムにルーツを持つ
 子どもたちに寄り添い続ける

秋晴れの気持ちが良い土曜日、朝早くから子どもたちがベトナム語の文字の練習に取り組んでいます。「先生、できた!」「先生、終わったから見て」と、元気に母語教室の主宰者であるベトナム夢KOBE 共同代表のズオン ゴック ディエップさんに話し掛けます。

たかとりコミュニティセンターで開催されるこの教室は、在日ベトナム人の方々がベトナムにルーツを持つ子どもたちの母語学習のために始めたもの。20年以上も続いており、ディエップさんが運営のバトンを受け取ってから10年以上になります。朝9時から10時半までは母語教室の先生、その後12時半までは学習支援教室の先生、13時半以降はベトナムから来日した中高生の相談役として、「毎週土曜日が終わるともうへとへとです。でも、子どもたちは本当にかわいい」とディエップさんは笑顔で話します。

母語教室に通うほとんどの子どもたちは日本で生まれて日本の



文字を練習中



先生に見てもらいます

小学校に通っているため日本語が得意です。しかし、ベトナム語については、会話はできて読み書きは苦手。ベトナム人の保護者が子どもにベトナム語で読み書きもできるようになってほしいと連れてきます。

教室に通う子どものレベルはさまざま。自分に合ったペースで楽しく学んでほしいと、ディエップさんはそれぞれに合った内容をマンツーマンで教えます。最初は文字の書き方から始め、その後、文字の組み合わせを学習。低学年から通う子どもは、6年生になると何でも読めるようになります。教材はベトナムの小学校の教科書を使いますが、内容が日本の生活に合わないこともあるそうで、そのために日本人向けのベトナム語の教材を使うなど工夫をしています。本当は一人一人に合った教材を作りたいけれど、なかなか時間が取れないのが悩みだそうです。

子どもたちは同じベトナム語でつながるクラスメイトたちとすぐに仲良くなり、教室にまた行きたいと保護者をお願いするとか。コロナ禍で教室がお休みだった期間は、「子どもが教室に行きたいと言っている」とたくさんの電話がありました。「私はみんなのお母さんだから」と話すディエップさん。ベトナムにルーツを持つ子どもたちのために、これからも温かく寄り添い続けます。



先生と読み方を練習



教室の様子

ベトナム夢KOBE TEL078-736-2987/Eメール vnkobe@tcc117.jp

避難所で使う多言語指さしボードを作成

HIAは、人と防災未来センターや外国人コミュニティ団体等の協力のもと、自治体国際化協会と協働して避難所で使える「多言語指さしボード」を作成しました。災害時は外国人県民も被災者となります。日本語でのコミュニケーションが困難な人のため、避難所運営者と被災外国人のそれぞれが指さしにより最低限の意思疎通を図れるようになっています。今後は、指さしボードの普及を図るとともに、県内の市町や市町国際交流協会と連携し、災害時における外国人への支援の取り組みをさらに進めていきます。

The image displays three sample pages of the multilingual signboard. Each page is titled in Japanese and includes icons and text in multiple languages (English, Chinese, Korean, Tagalog, etc.).

- 1. 避難の確認 (Check for evacuation):** Includes questions like 'Do you have a passport?' and 'Do you have a driver's license?' with 'YES/NO' options.
- 2. 避難所スタッフ用 (For staff):** Includes questions like 'Do you have a passport?' and 'Do you have a driver's license?' with 'YES/NO' options.
- 3. 被災外国人用 (For victims):** Includes categories like 'I need help', 'I need staff', 'I need items', and 'I need to contact my family'.

多言語指さしボードの対応言語は英語、中国語(簡体/繁体)、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、ロシア語、ベトナム語、タイ語、ミャンマー語、インドネシア語、ネパール語の13言語。3種類のボードを使い分けて使用言語を確認したり、被災者の困っていることや、体調、食事制限など支援に必要な情報を確認できます。詳しくはHIAのホームページをご覧ください。指さしボードは無料でダウンロードできます。



交流ギャラリーで写真展を開催

2020年10月19日(月)から11月9日(月)まで、ポーランドのガリツィア・ユダヤ博物館と東京外国語大学の企画による巡回展「記憶の跡をたどってーポーランドにおけるユダヤ人の過去へのまなざし」を開催しました。神戸とユダヤ世界には100年以上の交流史があり、関連プロジェクトを計画する神戸大学との共催で神戸での展示が実現しました。かつて花開いたポーランドユダヤ文化やホロコーストの痕跡が写された展示を前に、「残酷な歴史を二度と繰り返してはいけない」という声が多く寄せられました。



「記憶の跡をたどって」展



「につぼん一大使たちの視線2020」写真展 セミナーの様子

また、11月25日(水)から2021年1月12日(火)までは「につぼん一大使たちの視線2020」写真展を実施。世界中が在宅を余儀なくされたコロナ禍の2020年も無事に23回目の開催を迎え、「at Home in Japan」をテーマに40カ国の外交官やその家族56人の参加がありました。初日には展覧会ディレクターの安部忍氏がセミナーを開き、作品の裏話や見どころ解説で会場を楽しませました。

2021	4月	5月	6月	7月	8月	9月
HIA図書展示 カレンダー(予定)	国際協力って なんだろう?	国際家族デー	ロシア特集	いざ! 東京オリンピック	世界の冒険家	スペイン特集

※イベント内容は変更になる場合がありますので、ホームページで確認してください。

